

Title	インド財閥経営史研究
Author(s)	三上, 敦史
Citation	大阪大学, 1993, 博士論文
Version Type	
URL	https://hdl.handle.net/11094/38598
rights	
Note	著者からインターネット公開の許諾が得られていないため、論文の要旨のみを公開しています。全文のご利用をご希望の場合は、 〈a href="https://www.library.osaka-u.ac.jp/thesis/#closed"〉 大阪大学の博士論文について 〈/a〉 をご参照ください。

Osaka University Knowledge Archive : OUKA

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/>

Osaka University

氏 名 ^み三 ^{かみ}上 ^{あつ}敦 ^{ふみ}史

博士の専攻分野の名称 博 士 (経 済 学)

学 位 記 番 号 第 1 0 9 2 7 号

学 位 授 与 年 月 日 平 成 5 年 9 月 20 日

学 位 授 与 の 要 件 学 位 規 則 第 4 条 第 2 項 該 当

学 位 論 文 名 インド財閥経営史研究

論 文 審 査 委 員 (主査)
教 授 竹 岡 敬 温(副査)
教 授 宮 本 又 郎 助 教 授 佐 村 明 知

論 文 内 容 の 要 旨

これまでのような、タタとかビルラといった特定の財閥の、それもかなり企業支配の手法等に偏した研究と異なり、より広い基盤においてインドの有力な諸財閥を取り上げ、その生成・発展の過程を経営史の立場から、社会的出自、多角化戦略、所有と経営、経営理念、植民地支配との関係などをケース・スタディを通じて実証的に跡づけ、それぞれの個性的企業活動を明らかにするとともに、とくに戦前期の日本財閥との比較の視点よりインド財閥の総体的把握を試みた。ことに、伝統的なインド社会から近代企業者の供給がいかになされたかという点については、過去におけるカースト変更、移住、イギリス文化への早期接近、宗教改革運動への深いコミットメントなどに注目し、社会的逸脱、マージナリティ、準抛集団などの社会学的分析手法を援用しつつ論じた。また、所有と経営に関しては、インド財閥を家族形態との関連で、合同家族型、分裂型、小家族型、外集団型に分類しつつ、インドにおける同族経営の実態を鮮明にした。

論 文 審 査 の 結 果 の 要 旨

本論文は、従来の研究より考察の時期と対象をもっと広げ、いく度もの現地調査によって入手した資料にもとづいて、インドの有力諸財閥の形成と発展の過程を、経営者の社会的出自、多角化戦略、所有と経営、経営理念、イギリスによる植民地支配との関係などの観点から実証的に跡づけ、初めてインド財閥の総体的把握を試みたものであり、経済学博士（経済学）の学位に十分値するものであると判定する。